資料 2

県天然記念物“西浜のヒメコマツ(五葉松)”診断（報告）

兵庫県みどりのヘリテージマネージャー会
報告者　鳥越　茂

県教育委員会文化財課より、県天”浜西のヒメコマツ(五葉松)“の衰弱枝の原因と対策を検討して欲しいとの依頼により、診断を行ったので報告する。

１．日時：令和１年９月 12 日(木)　10:00～13:00
２．場所：明石市魚住町清水 427-2　石生　邸
３．参加者：兵庫県のヘリテージマネージャー　安田邦男・鳥越　茂・宗實久義
　　所有者　石生秀和
　　明石市文化財課　堀寛之　　(敬称略)

４．診断内容

1)経過　約 200 年前 50 年生の”浜西のヒメコマツ(五葉松)“(以下ヒメコマツ）を購入し自宅に植栽。ヒメコマツは盆栽の宝船仕立てになっている(写真-1)。昭和 20 年ごろ周辺が松くい虫の激害を受けた時、帆柱になっていた大きな枝を切ったため、樹高が低くなった。そして、南側の樹勢が弱くなり北側(建物側)の樹勢が良くなった。25 年以前に庭東側を約 30 ㎝盛土した。以前は南西方向に良く海が見えていたが、15 年ほど前から周辺が宅地化され、田んぼに水を入れる水路がコンクリートとなり、漏れてくる水がなくなるなど水環境が変わり、ヒメコマツの生育を阻害する要因が増えてきた。そして、平成 25 年日本樹木医会兵庫県支部の宗實樹木医に樹勢回復処置を依頼した。その結果は 25 年「簡易外観報告書」27 年「土壌調査報告書」、「27 年樹勢維持回復報告書」を県と市に提出された。25 年からは枝抜き剪定の年間管理(薬剤散布、剪定)を行い、現在に至る。

2)以上の説明が所有者の石生氏と宗實樹木医からあり、地下部については調べ、土壌改良も実施されていることから、地上部について検討した。台木に 7 本の枝が接ぎ木されているが、盆栽仕立てで樹形に変化を与えるため人為的に大きく左にねじって接がれている(写真—2)。枝ごとに樹勢の差が激しいが、衰退している枝を見ると根元付近に枯れ枝を切った後が空洞となっており、穴は直径約 12 ㎝、倹土棒を差し込むと深さは約 40～50 ㎝あり、ヒメコマツの中心部に達していた(写真-3、-4、-5)。
。根元を少し掘ると外部から幹に侵入しているヒメコマツ以外の直径約 2 ㎝の根が見つかり、腐朽部を養分にして生育しているように思われた(写真-6)。空洞となった原因はいくつか考えられるが、直接の原因は傷口から入った腐朽菌が心材を腐らせ、形成層の養水分の通道を阻害し、結果として先端の枝の伸びが悪くなり葉が枯れていったものと思われた。

今回の診断は聞き取りとヒメコマツの生育確認から推測したもので、不完全なものであるのは否めないが、樹齢 250 年とされるヒメコマツの枝に台勝ち、台負けといった接ぎ木の障害が起こるのは接ぎ木の宿命であり、今後は樹勢を良くすることより衰退を遅らせる管理をして見守るのが良いのではないかと思われた。現在の管理法はこの目的にかなっており、続けることをお勧めしたい。

写真-1
浜西のヒメコマツ全景

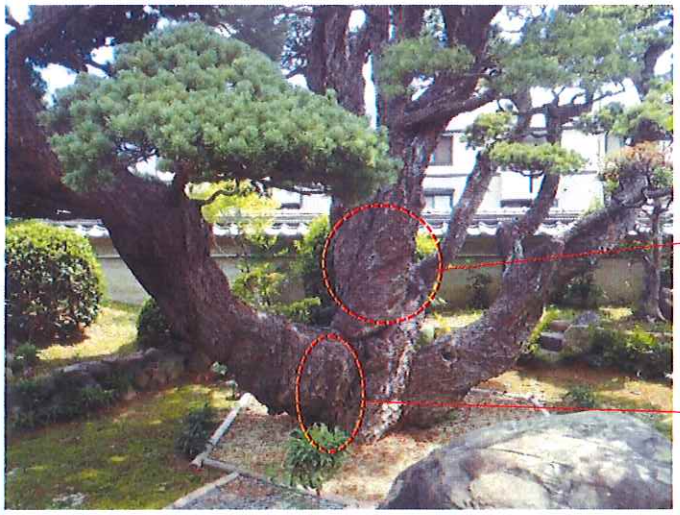

写真-2
根元部

人工的に左に回転させているのが分かる

接ぎ木部が線状になり接いであることがすぐに分かる

写真-3
衰退枝は葉量、伸び共に減少

写真-4
衰退枝下部の空洞(直径約12 ㎝)

写真-5
空洞に倹度棒を差し込む
約 50 ㎝の空洞を確認

写真-6
根元を堀り、直径約 2 ㎝の
広葉樹の根系侵入を確認